

## 委員会等の会議録

1 会議名	第2回愛南町食育推進協議会	
2 議題	(1) 第4次愛南町食育推進計画の骨子(案)について (2) その他	
3 開催日時	令和6年9月25日(水) 13時30分から14時40分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁 3階 大会議室	
5 傍聴者数	1人	
出席者		
6 委員氏名	若林 良和、岡本 威明、間々田 理彦、影山 康彦、 蓮本 由美子、武久 時子、清水 幸一、片山 新也、 湯浅 良彦、森岡 眞由美、谷口 さとみ、尾崎 千代子、 竹田 英則、埜下 浩孝、坂尾 良美、木原 荘二、濱見 陽計	
7 担当所属	所属名	保健福祉課
	担当職員 (職・氏名)	課長 中川 菊子 課長補佐 荒地 ミドリ 課長補佐 好岡 美智子
8 その他の 出席職員	所属名	保健福祉課、学校教育課、農林課
	出席職員 (役職・氏名)	健康部会 会長 清家 陽奈 教育部会 会長 山川 富美夫 産業部会 副会長 福田 新夏
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
中川課長	ただ今から、令和6年度第2回愛南町食育推進協議会を開催します。開会に当たり、片山会長が御挨拶申し上げます。
片山会長	(開会挨拶)
中川課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この協議会の協議内容は、事業の内容を多くの方々に理解していただくため、会議録をホームページで公開しています。会議の内容を録音しますので、御了承いただきますようお願いいたします。発言の際には、マイクのスイッチ入れて御発言をお願いします。</p> <p>また、本日若林委員はリモートでの参加となっています。業務の都合により中座されますが、協議はそのまま続けますので、御了承ください。</p>
若林委員	本来ならきちんと出席すべきなのですが、リモートで対応させていただきます。よろしく申し上げます。
中川課長	それではここからの協議は会長に進めていただきます。片山会長、よろしく申し上げます。
片山会長	議事に入る前に、第1回の食育推進協議会で質問等があった件について、事務局から説明をお願いします。
好岡課長補佐	<p>(第1回の協議会の質問等について説明)</p> <p>第1次計画から第3次計画までの食育推進の方向性について、基本理念は同じ内容です。基本目標は、第1次、第2次計画は同じ内容です。第2次計画では、少し実践目標を増やし、第3次計画では、新たに三つの重点目標と六つの基本方針を設定しました。</p> <p>食育アンケートの概要について、調査の対象は、①幼稚園・保育園児、小学校低学年(2年生)、②小学高学年児童(4年生、6年生)、③中学校・高等学校生徒(中学2年生、高校2年生)、④保護者(幼稚園・保育園児の年長児、小学4年生、中学2年生、高校2年生それぞれの保護者)、⑤高齢者(老人クラブ)です。</p> <p>配布数、回収数は、2ページの調査票の配布、回収数を御覧ください。回収率の低い高齢者でも72.1%で、総計では84.8%の</p>

<p>片山会長</p>	<p>回収率になっています。</p> <p>第3次計画の評価について、資料4、本日の差し替え分を御覧ください。</p> <p>前回の協議会で頂いた意見を基に、評価基準をA：目標達成、B：改善、C：現状維持、D：悪化、E：評価困難の5段階評価とし、増減数から相対的な増減率を用いて評価しました。また、一つの目標項目の中に複数の項目がある評価指標に関しては、各項目に関してAからEまでの5段階で評価した上で、A：5点、B：4点、C：3点、D：2点と換算して、平均を算出し、全体として5段階で評価しました。</p> <p>前回、評価指標(13)について、「学校給食で地場産物を使用する割合」の「町内産の食品」について、味噌やしょう油などの調味料は含まれているのかという御質問がありましたが、その分については含まれていません。</p> <p>第1回の協議会の質問等の説明は以上です。</p> <p>今の説明、よろしいでしょうか。</p> <p>では、議事に入ります。</p> <p>(1)第4次愛南町食育推進計画の骨子案について協議します。</p> <p>初めに、食育推進計画の目指す食育推進の方向について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>荒地課長補佐</p>	<p>(食育推進計画の目指す食育推進の方向について説明)</p> <p>協働部会の後、各部会長と協議を行い、各部会において食育推進の目指す方向の重点目標と、基本方針の取組目標を検討していただきました。</p> <p>第4次食育推進計画の方向について、基本理念には、健やかな心と体と地域力に加えて、豊かな人間形成を目指すという人づくりの要素を加えました。</p> <p>重点目標について変更点を紹介します。重点目標(1)からだづくりの「食は元気の源、食べる力を身につけよう」に「正しく選んで」という言葉を追加しています。(2)ひとづくりの「食で育む子どもの未来、楽しく食べて豊かな心を育てよう」を「主体的に食や健康を意識しよう」に変更しています。(3)まちづくりは変更ありません。</p> <p>ここで、各部会から、重点目標の根拠と今後の目標について説明していただきます。本日本配布した資料1差し替え分を御覧く</p>

<p>清家健康部会長</p>	<p>ださい。健康部会から順に説明をお願いします。</p> <p>健康部会は、重点目標(1)からだづくりについて説明します。事務局から説明がありましたが、第3次計画では、「食は元気の源、食べる力を身につけよう」でした。第4次計画では、健全な食生活を確立することを目的とし、「食は元気の源、正しく選んで食べる力を身につけよう」に変更します。</p> <p>近年、社会環境やライフスタイルの変化により、食に関する価値観が多様化し、外食や中食を利用する方が増加するなど、自分で食を選択する機会が増えています。さらに、食品や料理を選択する際に重視する点も多様化したことで、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加等、様々な影響が顕在化しています。</p> <p>このような食環境の変化に伴い、正しい知識、情報に基づき、食を選択する力を習得し実践できる力を育むことで、望ましい食習慣を定着させることがとても重要になってきました。</p> <p>そこで、今だからこそ、健康の保持増進のためにも、平常時、非常時問わず、食に対する意識を向上させることを目標とします。</p>
<p>山川教育部会長</p>	<p>教育部会は、ひとつづくりの「食で育む、子どもの未来へ主体的に食や健康を意識しよう」について説明します。</p> <p>変更点は、「主体的に」という言葉を強く入れるような形になっていますが、近年、子供の食をめぐっては、発育発達の重要な時期にありながら、栄養素摂取の偏り、朝食の欠食、小児期における肥満の増加や思春期における痩せの増加といったように、問題は多様化深刻化しています。これによって生涯にわたる健康への影響が非常に懸念されている状況です。</p> <p>また、アンケート結果にもありますが、親子のコミュニケーションの場となる食卓において、家族そろって食事をする機会も減少傾向にあるということが強く危惧されます。</p> <p>そこで、食を通じて、親子や家族、仲間、地域との関わりを深めて、子供の健やかな心と体の発育発達を促すため、教育機関を始め、世代間の交流や関係機関との連携を通して、食に関する正しい知識やマナー、食への関心、食の選択、感謝の気持ちを養うなど、自分事として食のスキルを身に付けるということが非常に重要になってくると思います。</p> <p>その主体的な部分は、自分事としてしっかりと動ける、考えら</p>

<p>福田産業部副会長</p>	<p>れるということに重きを置いて、このような形にしています。そして、心と体も健康で生き生きと生活が送れる人になるということを目標にこのように定めています。</p> <p>産業部会が担当しているまちづくりの目標について説明します。</p> <p>重点目標は、「海と山と里の恵み、愛南の食文化を守り広げよう」としています。活動の柱となる重点目標のため、これまでの方向性や活動を継続することが大事と考え、あえて第3次計画から変更していません。</p> <p>近年、ライフスタイルや価値観、ニーズが多様化し、食の多様化が進むことで、家庭や地域で伝承されてきた独自の食文化が失われつつあります。愛南町産の食材や郷土料理に関心を持ってもらうために、農林漁業体験や給食等により愛南町の食文化を伝承すること、また、町外に対しても、愛南の食の魅力を発信するという意味を込めて、この目標を設定しています。</p>
<p>片山会長</p>	<p>ただ今説明のありました重点目標について、アドバイザーの委員から、それぞれの取組や成果に関する補足や御意見等がありましたらお願いします。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>私も、ひとづくりにおいては主体的というところを重点的に考えています。やはり自分事して捉え、自分の体に合った食生活を送ることは非常に重要だと思いますので、第4次計画では、その辺りを中心に行いたいと思っています。</p>
<p>間々田委員</p>	<p>まちづくりに関してですが、新型コロナ明けということで、これまで継続してきたことを、いよいよ愛南町から発信することで、先ほどの御説明にもありましたように、特にまちづくりでは、基本的な理念を変える必要はないということになっています。</p> <p>ただ、後で説明があると思うのですが、その中身は徐々にバージョンアップすることを前提としていますので、改定しないということが後ろ向きだというわけではなく、前向きだと思っています。</p>
<p>若林委員</p>	<p>基本的には、今の国の推進計画にあるとおりで、まず継続性、それから選択能力を高めていくということが前提としてあ</p>

	<p>り、愛南町として食育実践活動をする中で、ひとづくり、人間形成という、最終的に人に焦点を当てる視点が必要だろうということで、基本理念について協働部会等で合意を得たということです。</p> <p>これまでの良かった部分はきっちり引き継いで、それを踏まえてニューアル、更新、バージョンアップといったところを整理して提案したものですので、委員の皆様の御審議、コメント、評価等、よろしく申し上げます。</p>
片山会長	<p>取組についての御意見、御質問などありませんか。</p>
森岡委員	<p>今年度は、一本松小学校が発表校になっています。特に食を通じて親子や家族、仲間、地域との関わりを深める中で、今は朝食を取らない子や孤食の子がたくさんいますが、それぞれ指導されてよくなっています。一本松小学校では、家族が食事をする時、食卓を囲んだ時に、どれくらいの子供が「いただきます」をしているのでしょうか。事前に調べていただいて、どのような状態かによって、そういう子供たちを育てることが一番ではないかと思います。</p> <p>それから、中食という言葉は初めて聞いたのですが、一般の人は中食という言葉は使っていないと思います。中食をどのように説明してるのか、どういうときに使うのかお聞きしたいです。</p>
片山会長	<p>一つ目は一本松小学校のことなのでお答えします。家庭において、「いただきます」をしているかどうかの調査はしていません。ただ、朝食を食べているかの調査はしています。「いただきます」についても今後調査してみますが、恐らく朝食と夕食で変わるかなと感じています。</p> <p>命を頂くという感謝の気持ちについては、今後も校区別人権同和教育懇談会でテーマとして学習していこうと思っています。</p>
好岡課長補佐	<p>中食について、補足していただいてよろしいですか。</p> <p>中食ですが、総菜等を利用することを意味します。買って帰るという意味での中食ということになります。</p>
岡本委員	<p>後、一つ目のいただきますに関しては、後ほどの取組目標のところでも挙げていますので、そこで、重点的に取り組むという形を</p>

	取っています。
森岡委員	核家族が増えているので、おじいさん、おばあさんがしているところを見る機会もなくなってるので少し心配です。
若林委員	<p>今、森岡委員から御指摘、御質問があった点は、食育推進の中では非常にポイントになると思います。</p> <p>「いただきます」については、この後の基本方針と取組目標の4番目に位置付けています。愛南町の食育推進の中で、六つの内のコア部分だと考えています</p> <p>中食は、働き方改革が進み、昨今のライフスタイルや食事の形態の多様化の一つとして、中食という言葉が出てきました。事務局からの説明も含めて、外食と家庭の間の中間料理として位置付けられます。</p>
片山会長	次に、基本方針と取組目標について説明をお願いします。
荒地課長補佐	<p>最初に(1)から(6)までの基本方針の変更点について説明します。資料の差し替えの分の裏面を御覧ください。</p> <p>(2)「かみかみ食育」を「よくかむ食育」に変更しました。</p> <p>(3)「はぐくむ食育で高めよう、子どもたちの食育力を」という表現を「食べる力」へ変更しました。</p> <p>(5)「つながる食育」を「みつける食育」へ変更しました。</p> <p>(6)「ひろがる食育」を「ひろめる食育」へ変更しました。</p> <p>前回の推進会議の際に、「ひろげる食育」へ変更しましたが、「ひろめる」という表現の方が意味合いとして合っているということで、協働部会で検討しました。</p> <p>次に、取組目標の変更点について説明します。</p> <p>(1)つづける食育について、「非常時への食に関する力を身に付ける」を追加しました。</p> <p>(2)よくかむ食育について、「よくかんで食べる」を追加しました。</p> <p>(3)はぐくむ食育について、「食に関する正しい知識や食品を選ぶ力を身に付ける」と、「誰かと食事を楽しむ(共食)」を追加しました。</p> <p>(4)いただきます食育について、「残さずに食べる」を追加しました。</p> <p>(5)みつける食育について、「身近な地場産物に対する関心を</p>

清家健康部会長	<p>深め、積極的に利用する」に訂正し、「愛南町の食を次世代に伝える」を追加しました。</p> <p>(6)ひろめる食育について、「愛南町の食の魅力を発信する」を追加し、「食を通して愛南町に人を呼び込む」を訂正しました。</p> <p>ここで各部会から、基本方針と取組目標についての根拠と、今後どういう取組を推進していくか説明をしていただきます。</p> <p>健康部会から順にお願いします。</p> <p>基本方針の「つづける食育」と「よくかむ食育」について説明します。</p> <p>まず、「つづける食育」ですが、第3次計画から変更せず、生涯の健康づくりをしています。「つづける食育」とは、赤ちゃんからお年寄りまで切れ目なく続ける食育のことです。</p> <p>以前から、望ましい食習慣や生活リズムの向上、生活習慣病の予防や改善に向けた食育、フレイルを進行させる要因である低栄養を予防する食育を推進していますが、今後もこうした目標で取組を継続していきたいと考えています。食育は、長期的な取組が必要であり、ライフステージに応じた継続性のある食育を推進していくことが重要だと感じているからです。</p> <p>また、近年、豪雨や地震等による大規模災害が発生しており、非常時の食の備えの重要性が増していることを踏まえ、非常時に備えた食育も推進します。それに伴って、非常時への食に関する力を付ける取組目標を追加しました。</p> <p>今回、「非常時」という言葉を選んだ理由として、取組目標の項目に「非常」とあること、また「災害時」と記載することで自然災害や人為災害に限定されてしまうことを避けるためです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大下では、食生活においても様々な変化が見られました。非常時の食事であっても、日常生活の延長として、健全な食生活が実践できる食育を推進します。</p> <p>次に「よくかむ食育」です。これまで、「かみかみ食育」として取り組んできましたが、基本方針(1)から(6)のほかのフレーズと比較すると、「かみかみ食育」だけ違和感があるという御意見を頂き、一般的にも分かりやすく、なおかつ動詞で考えた結果、「よくかむ食育」に変更しました。</p> <p>フレーズは、「よくかむ食育」に変更しましたが、噛むことを大切にして、その年代に応じた口腔機能の維持向上を目指すことは継続します。</p>
---------	---



山川教育部会長

また、第4次計画では、評価指標に沿って、よく噛んで食べるという取組目標を追加して、噛むことの効用を示す食育ワード「ひみこの歯がイーゼ」を取り入れた文章を考案しました。

噛むことは、ひ：肥満予防、み：味覚の発達、こ：言葉の発音、の：脳の活性化、は：虫歯予防、が：がん予防、イーゼ：胃の消化を助けるなど、全身の健康に関わる重要な役割を持つため、食事を通してよく噛む力を鍛える食育を推進します。

また、虫歯や歯周病、オーラルフレイルを予防するため、歯科検診、フッ素洗口等の適切な口腔ケアを普及啓発しながら、健康な歯を保つための食育を推進します。

教育部会は、「はぐくむ食育」と「いただきます食育」の説明をします。

まず、「はぐくむ食育」ですが、「高めよう子どもたちの食べる力を」と、「食育力から食べる力」という風に変えていますが、これも、人づくりのところの「主体的に」ということと大きく関連しています。子供一人一人の食べる力を豊かにするということが重点化し、その支援として、食べ方や食育、まちづくりの技術はもちろん、食情報への対処の仕方や、自分に合った適切な食べ物を選択すること、これは好き嫌いというわけではなく、自分の体に必要な物や食事の量をしっかり考えるという意味があります。また一緒に食べる人への気遣いなど、食事の知識を身に付けるための指導をしていきたいと考えます。

そのため、学校給食はもちろん、関係機関と連携した食に関する指導を通して、自分にふさわしいものを自分で選んで生活していける力を育てていきます。

また、家族や地域の人と交流を図りながら食事を楽しむことを推進したいと思っています。

楽しく食事をする子供を育てるためには、食事のリズムが持てる、味わって食べる、安心感や信頼感を深めるために、一緒に食べたいと思える人がいる、食事作りの準備に関わるといったように、人との関わりの中から、多くの経験や情報が必要になってくると思います。

これらのことを満たすことによって、食生活や健康に主体的に関わる子供になると考えていますので、食べる力というところを強く置いています。

続いて、「いただきます食育」についてです。これは、言葉自体は前回と変更していません。

<p>福田産業部副会長</p>	<p>この中に、残さず食べる食品ロスという取組が入ってきています。作り手や食べ物に対する感謝の気持ちを養い食への関心を高め、おいしく食べることで豊かな心を育てるために、食物の栽培や市場の見学、農林水産業と協力した料理体験を通して、食への安心や感謝の心を高めていきたいと考えています。食品ロスが及ぼす環境問題についても、学習の対象となってくると思います。</p> <p>できることから取り組むという実践力を育てる、自分に何ができるかということをしっかり考えさせるというところを狙いとしています。</p> <p>食への関心は、幼児期から、食事作りや、食事場面だけでなく遊びや絵本などを通して、食べ物や体のことを話題にする経験を増やすことによって、徐々に高まってくるものではないかと考えます。</p> <p>思春期になると、食を通して自分の体や健康に対する態度を身に付けることが、発達段階に応じて、食に関する活動を広めていきます。</p> <p>そうすることで食への関心が勿論高まり、食の重要性への理解や感謝がしっかりと生まれ、また食品ロスの軽減にもつながっていると考えます。</p> <p>そういった意味で、この「いただきます食育」では、体ももちろんですが、しっかり心を育てたいという狙いで、「育てよう豊かな心」としています。</p> <p>産業部会では、基本方針を「みつける食育で深めよう地域の絆を」に設定しました。</p> <p>「みつける食育」とは、多様な視点から地域の食を「学び識る」食育としており、食を通じて新たな地域性を発見し、様々な場面で生かすことのできる食育のことです。</p> <p>取組としては、町内での地産地消の推進や郷土料理の伝承を行います。また、食に関連する町の産業についても関心を持つことで、食を通じた地域内のつながりを深めます。</p> <p>根拠は、食育を通じて新たな地域性を発見し、様々な場面で生かせるような食育の展開を図ることや、地域資源の利活用推進が重要ではないかと考えたためです。</p> <p>また、地場産物、特に特産品の河内晩柑を始めとした農産物の積極的な利用を図ることも重要と考えます。</p> <p>説明において、「知る」ではなく、あえて言べんの「識る」とし</p>
-----------------	---

	<p>たのは、食に関する知識を得るだけでなく、人と人のつながりや食の豊かさの実感、食に関する新発見への喜びといった精神面での効果も期待したためです。</p> <p>取組目標は、「身近な地場産物に対する関心を深め、積極的に利用する」、「愛南町の食を次世代に伝える」の二つです。</p> <p>「ひろめる食育」は、愛南の食の豊かさを町外にアピールする食育としており、地域の食を通じて愛南ファンを増やし、町内から町外へと交流を広げる食育のことです。</p> <p>ぎょしょく教育の各種コンテンツや活動等の食材を愛南町の広報的要素として捉え、町外へ向けて、農林漁業者や食品関連事業者と連携した食育や、姉妹都市との食育交流に取り組んでいきます。</p> <p>根拠は、新型コロナの感染症5類への移行を受けて、人との交流が活発になっており、そのような状況において、愛南町に来る人に対して、食の魅力の発信をすることの重要性が高まっているためです。</p> <p>また、これまでの全国各地でのぎょしょく教育等のコンテンツは、愛南町の食の広報的要素として有効な手段であることから、姉妹都市との食育交流も含めた機会とコンテンツを効果的かつ効率的に生かし、愛南町の食の魅力をアピールできるよう、関係諸機関の連携を深めて取り組む必要があると考えたためです。</p> <p>取組目標は、「愛南町の食の魅力を発信する」、「食を通して愛南町に人を呼び込む」の二つです。</p>
片山会長	ただ今の説明について、アドバイザーの委員から補足や御意見等がありましたらお願いします。
岡本委員	<p>「いただきます食育」について、部会長から、料理体験を通して食への関心を高めるという話がありました。</p> <p>食への関心を高める方法として、第4次計画では、子供たちの五感に響くような体験をさせること、つまり出汁など、かつお節を子供たちの目の前で削って香りを嗅いでもらったり、出汁を取るといった体験を、本物のカツオを見ながらすることで、食育の意味というものも分かっていたいただけるかなと思っています。</p> <p>そういうリアルな体験を、この第4次計画では推進していこうと考えています。</p>

間々田委員	<p>産業部会管理では、地域内と地域外をあえて強く分けて、基本方針と取組目標を設定しています。</p> <p>知識だけでなく、心身面も含めた食育を、地域内でしっかりとしていくというところが大切です。</p> <p>愛南町がずっと構築してきたものを、外へ向けて更に視点を変えてアピールしていくことも重要ではないかということで設定しています。</p>
片山会長	若林委員、お願いします。
若林委員	<p>私からは二つあります。</p> <p>まず一つ目は、今回の基本方針、取組目標です。</p> <p>基本理念のところで、豊かな人間形成を目指すということで、人を中心に考えようとしています。基本方針として、六つの方針を掲げ、愛南町の住民の食育実践として、こういう行動を取っていただきたいということを取組目標としました。</p> <p>それからもう一つは、基本方針と取組目標についての議論をしていますが、再度、各委員におかれましては、流れ、あるいは整合性といいますか、つながりの確認をお願いしたいと思えます。</p> <p>基本方針、取組目標が、本町としての食育活動をしていくときの目標というところで、第3次計画から踏襲しながらしていくこととなります。</p> <p>皆様からは、きたんのない御意見を頂きまして、それを踏まえた形で、最終的な成案に持って行きたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
片山会長	委員の皆さん、御意見、御質問などありませんか。
全委員	(なし)
片山会長	次に、第4次愛南町食育推進計画の構成について説明をお願いします。
荒地課長補佐	<p>資料2を御覧ください。</p> <p>この表は、左に愛媛県の第4次計画、右に愛南町の第3次計画の構成を並べています。真ん中が第4次の愛南町食育推進計画案です。</p>

	<p>赤字で示している変更部分について説明します。</p> <p>第2章の2、愛南町食育活動の取組状況は、第3次計画では、健康分野、教育分野、産業分野ごとの取組に分けて計画をしていたため、その実施状況を三つに分けて表示しました。</p> <p>第3次計画の施策展開では、分野の枠を取って六つの食育に分けて計画しましたので、実施状況を六つの食育ごとに表示しています。これは前回の第3次計画の取組状況ですので、食育名も前回の名前になっています。</p> <p>第3章の食をめぐる現状と課題については、県の第4次計画の項目を参考にして、第3次計画の第3章の1を、食生活の変化や栄養バランスの乱れに変更し、2と3を合わせて、健康への影響、三つ目として食を取り巻く環境や意識の変化としています。</p> <p>第4章の変更点については、先ほど説明をしましたので省略します。</p> <p>基本方針の、全ての取組に係ることとして、SDGsとICTの内容は盛り込んでいく予定です。</p> <p>第5章と第6章は、県の第4次計画を参考にして、第5章を評価指標に、第6章を施策の展開に変更しています。</p> <p>第6章の食育推進の施策展開についても、先ほど取組目標の追加、訂正を説明していますので、省略します。</p> <p>現在、取組の具体的なことについては、各部会で検討をしているところです。第3次計画から更に発展させて、自主的かつ積極的に取り組むことを目指す計画にしようと考えています。</p> <p>第5章と第7章以降は変更ありません。</p>
片山会長	<p>それでは、ただ今の説明について御意見、御質問などありませんか。</p> <p>次に、第4次愛南町食育推進計画、評価指標について説明をお願いします。</p>
好岡課長補佐	<p>資料3を御覧ください。</p> <p>この指標一覧は、左から国の第4次計画、県の第4次計画、町の第4次計画、一番右に第3次計画の指標を並べています。</p> <p>第4次計画では18の指標を設定してはどうかと考えています。</p> <p>第3次計画から追加変更した指標について説明します。愛南町第4次計画の欄を御覧ください。青く色付けした部分、追加した指標について説明します。資料2の②です。</p>

第3次計画までは朝食の共食を指標にしていますが、県に合わせ、夕食での共食の状況が把握できるよう、指標に追加しました。朝食と夕食の状況がそれぞれ分かるように、一緒にせず別々にして、また、世代別に目標値を設定しました。

第3次計画の評価を踏まえ、子供の食生活に影響を与える保護者の目標値を、朝食の2の1の下のところ追加しています。

あわせて、ほかの世代の目標値の見直しも行いました。

次に指標3、地域等で共食したいと思う人が共食した割合を、県の指標に合わせて追加しています。

次に、指標7、食生活で薄味に気を付ける人の割合を追加しました。

愛媛県健康課題でもある心不全の予防、愛南町の健康課題、メタボの予防のためには高血圧を予防することがとても重要です。国や県のように塩分摂取量を調査することは難しいため、現在調査している愛南町民の食生活アンケートで把握できる、薄味に気を付けている人の割合を指標に追加しました。

次に、黄色に色付けした部分、変更する指標について説明します。

指標5は、学校給食で地場産物を利用する割合について、町内産、県内産食材ベースだったものを、学校給食で町内産農水産物を使用する割合、国産食材を使用する割合の金額ベースに変更しています。

学校給食では、町内産の水産物、農作物を使用するシステムづくりが進んでおり、愛南町の地場産物を使用しています。

そのため、町内産については、農水産物、米や野菜などの生鮮食品、冷凍の魚の切り身などの素材品が含まれたものも使用割合に変更しました。県との比較はできませんが、愛南町産の農水産物をどれだけ使用しているかが分かるものです。

国際食材を使用する割合は県に合わせて変更しました。

この二つの指標については、今まで食材ベースだったものを、県に合わせて金額ベースに変更します。

目標値は、現在の使用割合、ここ数年、町内産については40%台、国産材料については90%以上を使用していますので、その数値を基に設定しています。

その他の指標については変更ありません。

今までと同じ指標のもの、目標の達成状況や、現状値、今回見えてきた課題等に合わせて目標値を変更しています。目標値を変更したのものについては赤字で示しています。

片山会長	ただ今の説明について御意見、御質問等ないでしょうか。
間々田委員	先ほど、いただきますのお話があったかと思うのですが、指標(15)の食事の時に挨拶を必ずする人の割合というのは、いただきますとごちそうさまを指していると解釈してよろしいでしょうか。
好岡課長補佐	アンケートの質問項目は、「あなたは食事の挨拶、いただきます、ごちそうさまなどをしますか」という質問になっています。
片山会長	ほかにないでしょうか。
岡本委員	食べ残したときにとってももったいないと思う人の割合の目標値を、前回より10%下げて70%以上にしている理由は何ですか。
好岡課長補佐	資料4の、評価指標(10)を御覧ください。食べ残したとき、とってももったいないと思う人の割合が、前回の調査で56.7%、今回調査で59.0%となっています。目標値の80%にはほど遠い数になっていまして、実現可能で、少しでも目標に近付けるようにというところで今回目標値を下げています。
竹田委員	第3次計画から第4次計画にかけて、全体的に目標値が控えめなのですが、今の話と一緒になのですが、全体的に少し控えめに設定しているということでしょうか
好岡課長補佐	現状値に合わせて、目標数値を達成しやすい数値に設定したということもあるのですが、魚を好む人の割合などに関して、質問項目が、魚と肉のどちらが好きかというような質問項目になっています。魚が好きかという質問項目であれば80%以上を目指すという意見もあったのですが、今のところの意見も踏まえて、75%というような形で、現状を維持するということも含めた数値変更もあります。
竹田委員	数値の話ですが、最初の目標値は少し高めですが、後は全部控えめになっているような気がします。 目標ですから、実際ではないのでそんなに下げなくても良いと思います。現状値についても、それほど気にしなくても良いの

	ではないかと私は思います。
好岡課長補佐	今日頂いた御意見を基に、事務局と協働部会で再度検討したいと思います。
片山会長	それでは、頂きました御意見、御提案を基に、各部会委員にも共有し、計画の策定を進めていただきたいと思います。 続いて、(2)その他食育全般について、御意見御質問などはありませんか。
全委員	(なし)
片山会長	ないようですので、協議を終了します。 御協議ありがとうございました。
中川課長	片山会長ありがとうございました。 また、委員の皆様、熱心な御協議ありがとうございました。 閉会に当たり、木原副町長から挨拶申し上げます。
木原副町長	(閉会挨拶)
中川課長	以上をもちまして、令和6年度第2回愛南町食育推進協議会を閉会します。